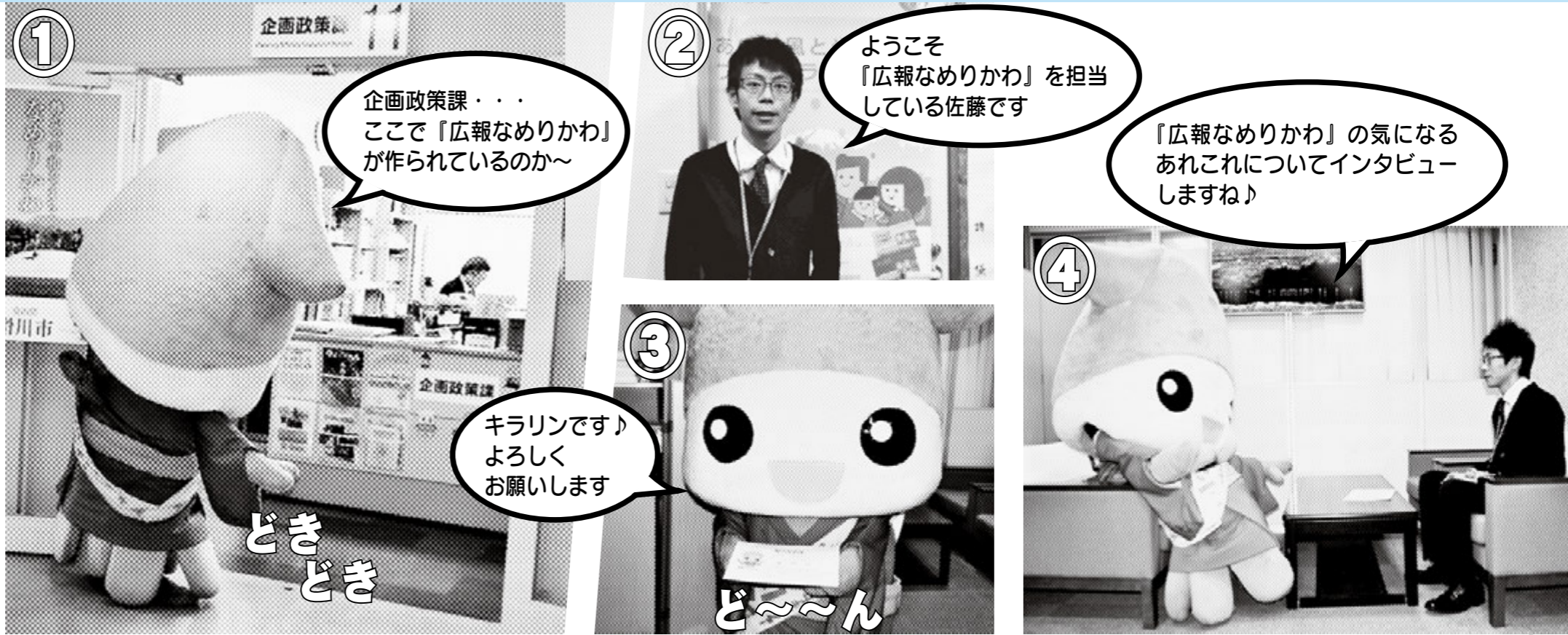


突撃取材！ 『広報なめりかわ』 のあれこれ

毎月皆さんの家庭に届く『広報なめりかわ』。どのように作られているのか気になります！そこで、私、キラリンが記者に扮し、『広報なめりかわ』の担当者さんにインタビューしました。



企画政策課・・・
ここで『広報なめりかわ』
が作られているのか～

ようこそ
『広報なめりかわ』を担当
している佐藤です

『広報なめりかわ』の気になる
あれこれについてインタビュー
しますね♪

キラリンです♪
よろしく
お願いします

どきどき

ど～～ん

さっそくですが、『広報なめりかわ』がどのようにして作られているのか教えてください

『広報なめりかわ』は取材した記事と各課から提出された記事を中心に構成されています。

取材ではインタビューや写真の撮影などを行っています。取材した内容を分かりやすく書くというのですが、昔から文章を書くのが苦手です。書いては直し、考えては直しを毎月繰り返しています。写真の撮影については市の歴史を記録するという役割もあり、イベントによっては千枚を超える写真を撮影することもあります。そのため、どの写真を広報誌に使うか悩むことも多々あります(笑)

各課からの記事は、発行日の約20日前までに提出してもらい、原稿が出せると、文面などを整えながら、Idesine(インデザイン)という編集ソフトを用いて誌面を作成しています。締切日からおよそ3日間で大まかなカタチを作り、内容を確認してもらった後の初校、最終校を経て、発行日の約10日前に印刷業者にデータを渡して、印刷を依頼しています。

10日間ほどで完成させなければならぬのです。慌ただしいスケジュールのような気もしますが

取材・撮影・編集・広告の受付など、印刷を除く全ての作業をほぼ1人で行っていきますので、繁忙期は常に頭をかがえています。

その反面、イラストの作成やデザイン、写真の加工など様々な技術を身に付けることができるほか、新コーナーの企画、レイアウトの変更など新しいことにチャレンジしていける環境なので、とてもやりがいのある仕事だとポジティブに考えています。少し話がそれますが、やりがいと言えば、広報担当になる前は、生活環境課という部署で業務を行っていました。そこでは家庭ごみの戸別収集制度を提案し、条例改正にも携わるなど、様々な内容の仕事に取り組みすることができました。

滑川市役所はアイデアと情熱次第で大きな仕事もできる職場だと思います。本特集の最後に市の職員募集の記事を掲載していますので、関心のある方はぜひ、ご応募ください。

いかなくはと、読みやすい誌面・親しみを持って誌面を心がけながら少しずつですがレイアウトなどを変えていきました。また、新たな取り組みとしてスマートフォン向けアプリ「i広報紙」を用いた広報なめりかわの配信を2月から開始しています。

配信を始めた当時は若い世代の方を中心に利用が広まるかと思いましたが、実際に配信してみると、10代から70代まで幅広い年齢層の方にご利用いただいています。「i広報紙」はGoogle playまたはApp storeからダウンロードし、無料で利用していただくことができますので、ぜひ、必要な情報などをチェックしてください。

今後どのように『広報なめりかわ』は変わっていきますか。予定などありましたら教えてください

今月号から『まちのうごき』のレイアウトを変更しました。また、来月号から、写真やイラストを多く掲載する特集記事や『まちのうごき』などをフルカラーにすることを、誌面がやわらかい印象に

さりげなく職員募集の案内が入りましたが、そういった作業で作成される広報の内容が気になります

広報の顔である表紙は季節感を感じられるものや、イベントなどの様子を中心に毎月何パターンか用意し、これだ！と思うものを使うようにしています。今月号は春をイメージして、3月に完成した「いをのみ公園」で子どもがシャボン玉で遊ぶ様子を撮影しました。

表紙をめくって2〜3ページ目は特集記事を掲載することが多いです。特集記事は毎月何を題材にしようか最も悩むコーナーですが、キラリンに記事を書いてもらったり、ぬり絵コーナーを設けたりと、遊びゴコロを取り入れながら、皆さんに親しんでいただける誌面となるよう一番工夫しているコーナーでもあります。

私が書いた記事というのは今年の2月号の特集記事のことですね。滑川市の子育て支援などを色々調べたりできて、とても楽しかったです。さて、本題に話を戻して広報の内容についてですが

なり、より親しみを持って広報誌になればと期待しています。また、スマートフォンの専用アプリを起動し、広報誌にアクセスと静止画が動き出した、3Dが動き出すといったAR(拡張現実)技術の活用なども検討していきたいなと思っています。

最後になりますが、今後の目標や抱負などがありましたら教えてください

広報誌は自治体の「顔」と言われます。そのため、自治体によって広報誌の内容が異なる反面、地域に暮らす方々に必要な情報を柔軟にお届けすることができません。広報誌の読者は全市民を対象としているため、誰もが読みやすいと感じることができる誌面を作ることは難しいかもしれませんが、何が求められているのかを市民目線に立ちながら、少しでも多くの方に「今月の広報面白かったよ」と言っていたらいいなと思います。